

同窓の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は、同窓会活動に格別なるご理解、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

このほど、平成二十六年度同窓会総会にて会長を仰せつかりました御室です。前任の稲垣訓宏会長をはじめ、錚々たる先輩方が歴任された重責に對し、まさに身の引き締まる思いであります。精一杯務めてまいりますので、皆様には、なにとぞご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、ご案内のとおり、今年、浜松西高創立九十周年とい

同窓会会長御室健一郎(高16回)



新同窓会長挨拶

その一方、社会面からの重大ニュース入り当選確実は「現代のベーターヴェン」と「STAP細胞」の二つでしょう。どちらも「ホントはどうなの？」という疑問が拭われないまま、フェードアウトしてしまつたようですが、私なりに感じていることは、努力の過程(プロセス)よりも成果や結果(アウトプット)が重視され注目を集める、という世の風潮がこの二つの事案の背景にあるのではないかとということです。

インターネットが当たり前の日常となつた今、パソコンやスマートフォンさえあれば、あり

う節目の年であります。加えて、四年に一度の冬季オリンピック、さらにはワールドカップサッカーというスポーツビッグイベントの開催が重なつた年でもあります。

気の早い話で恐縮ですが、おそらく、年末になれば「今年の重大ニュース」では、ソチオリンピックでの四十一歳レジエンド葛西選手の銀メダルや十九歳羽生選手の金メダルなど、日本選手の活躍がとりあげられることでしょう。

とあらゆる情報に一瞬にしてアクセスできるとともに、マウスをクリックするだけで、自分の手元に入手することもできるよ

うになっていく中で、時間をかけて問題を解くことよりも、すばやく答えを見つけ出すことの方が、評価されるようになってしまつていくのかもしれない。

ただ、九十周年を迎えた母校の生徒諸君にあつては、辞書を引く、百科事典で調べる、図書館で文献を探す、実物をこの目で確かめに出掛ける、実験する、ノートに筆記する・・・かつて、こうして我々が学び、体験してきたことは、伝統としてきちんと受け継がれ、決して手のひらの中で人差し指を動かすだけの操作には置き換えられないものだと確信しています。

正面から目標と向き合い、地道な努力を継続し、課題を克服し目標を達成する。いたつて当たり前前のことではありませんが、希望ある将来に向けて、今後ともこうしたことを身につけた有為な人材が、数多く巣立っていくことを強く願っています。



発行
静岡県立浜松西高等学校同窓会
発行人
御室 健一郎
題 字
町田 晃
編集
同窓会報編集委員会
浜松市中区西伊場町3番1号
電話 053-456-0662
印刷
(有)ケーエス企画
発行部数 14,700
浜二中卒業生 2,041名
浜西高卒業生 24,061名
(内女子5,205名)
内25年度卒業生244名(107名)

http://www.hamanishi.org

もつと強く、もつと広く

It's connected.

繋がる

静岡県立浜松西高等学校同窓会
2015年新春の集い

日時:2015年1月2日(金) START 15:00 ◆場所:グランドホテル浜松
主催:浜松西高等学校同窓会 ◆運営:浜松西高第47回(平成7年)卒同窓会幹事会

18回(金) 080-6967-1674

繋 繋がる

テーマ「つながる」です。キーワードは「3本の矢」。

一本目は上(先輩方)との「つながり」、二本目は下(後輩)との「つながり」、三本目は横(同級生)との「つながり」です。

一本、二本、三本が重なり合うことによってより強く強くなります。

同窓生との「つながり」をより強くして、今後の人生をより充実したものとするための契機にしてください。

日時:平成27年1月2日(金) 15:00~
場所:グランドホテル浜松
会費:8,000円(高47回卒以前)
5,000円(高48回卒以後)
主催:浜松西高等学校同窓会
運営:浜松西高第47回(平成7年)卒同窓会幹事会

チケット、記念誌広告のお問合せ:080-6967-1674

平成二十六年総会報告

六月二十一日(土)午後四時より、グランドホテル浜松孔雀の間にて、平成二十六年同窓会総会が開催され、六十三名の会員の出席を得た。稲垣訓宏同窓会長、木村 功名譽会長の挨拶に続き、今年度の議事について協議が行われた。

◇議事

- (一) 平成二十五年事業報告
- (二) 平成二十五年決算報告、及び同監査報告
- (三) 「二〇一四年 新春の集い」事業報告、決算報告、及び同監査報告

◇役員改選

- (四) 役員改選
- (五) 平成二十六年事業計画(案)
- (六) 平成二十六年予算(案)
- (七) 「二〇一五年 新春の集い」事業計画
- (八) 役員選考会の設置について

◇報告事項

- (一) 予定されている今後のスケジュール
- (二) 「二〇一四年新春のつどい」から校旗を学校に寄贈した
- (三) 同窓教員の転出、転入

◆役員改選

議事の第四号議案にて役員改選案が提示され、御室新会長をはじめとする新執行部が承認された。初々しくも実力を伴った面々で構成された執行部は、新たな同窓会の出発を予感させるものであった。なお、新執行部の

役員は以下のとおりである。

会長	御室健一郎(高16回)
副会長	小笠原守之助(高23回)
	薩川 敏(高31回)
	竹内 良訓(高32回)
	岩淵 千江(高39回)
新春の集い当番幹事	村松 貴通(高47回)
	安田 恵(高47回)
会計	鈴木 敏勝(高21回)
監査	前田 米蔵(高12回)
	市川 静子(高15回)



議事最後の新春のつどい事業計画では、高47回代表幹事らによる挨拶があり、テーマ「つながる」に込めた熱い思いと計画が発表された。「若い世代の方も含め、多くの皆様に集まってもらい、楽しく盛り上がる会にしたい。」

総会終了後は、舞台上で二〇一四年新春のつどい寄贈の校旗が披露される中、例年通りの懇親会がスタート。学年を越えて和やかに会談する会員の姿が随所で見られた。



《新役員のみなさん》



副会長
岩淵 千江



副会長
竹内 良訓



副会長
薩川 敏



副会長
小笠原守之助



会長
御室健一郎



会計監査
市川 静子



会計監査
前田 米蔵



会計
鈴木 敏勝



新春の集い当番幹事
安田 恵



新春の集い当番幹事
村松 貴通

平成25年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計決算書

収入総額 14,916,835 円
 支出総額 7,114,687 円
 差引残額 7,802,148 円

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	9,345,545	9,345,545	0	前年度繰越金
入会金	3,600,000	3,660,000	60,000	高校66回卒業生244名
基金利子配分金	2,400	2,400	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	500,000	826,432	326,432	新春の集い剰余金
雑収入	20,000	42,458	22,458	預金利子、同窓会名簿代等
エアコン設備使用料	1,040,000	1,040,000	0	後援会より23年度から12年間回収
合計	14,507,945	14,916,835	408,890	

支出の部

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
1 事務費	700,000	574,043	125,957	
事務局費	400,000	363,769	36,231	事務局職員給与、光熱費他
需用費	300,000	210,274	89,726	複写機リース料等
2 会議費	600,000	231,323	368,677	
総会費	400,000	79,772	320,228	総会会議費
役員会費	200,000	151,551	48,449	役員会会議費
3 事業費	4,300,000	3,309,321	990,679	
会報費	2,800,000	2,324,558	475,442	ホームページ運営費、会報印刷代・送料、会報編集委員会運営費等
助成費	1,500,000	984,763	515,237	慰霊祭、激励費、海外研修援助費、西山賞、講演会謝礼等
4 予備費	8,907,945	3,000,000	5,907,945	基金定期預金作成
合計	14,507,945	7,114,687	7,393,258	

平成26年5月13日
 以上のとおり報告します。

静岡県立浜松西高等学校同窓会 会長 稲垣 訓 宏
 会計 鈴木 敏 勝

上記の決算について証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。

平成26年5月13日 会計監査 前田 米 蔵 (印) 会計監査 市川 静 子 (印)

平成26年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計予算書

収入総額 12,964,048 円
 支出総額 12,964,048 円
 差引残額 0 円

収入の部

(単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
繰越金	7,802,148	9,345,545	△1,543,397	前年度繰越金
入会金	3,600,000	3,600,000	0	高校67回卒業生240名
基金利子配分金	1,900	2,400	△500	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	500,000	500,000	0	新春の集い剰余金
雑収入	20,000	20,000	0	預金利子、同窓会名簿代等
エアコン設備使用料	1,040,000	1,040,000	0	後援会より23年度から12年間回収
合計	12,964,048	14,507,945	△1,543,897	

支出の部

科目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
1 事務費	700,000	700,000	0	
事務局費	400,000	400,000	0	事務局職員給与、事務局維持費等
需用費	300,000	300,000	0	複写機リース料等
2 会議費	500,000	600,000	△100,000	
総会費	300,000	400,000	△100,000	総会会議費
役員会費	200,000	200,000	0	役員会会議費
3 事業費	4,100,000	4,300,000	△200,000	
会報費	2,600,000	2,800,000	△200,000	ホームページ運営費、会報印刷代・送料、会報編集委員会運営費等
助成費	1,500,000	1,500,000	0	慰霊祭、激励費、海外研修援助費、西山賞、講演会謝礼等
4 予備費	7,664,048	8,907,945	△1,243,897	
合計	12,964,048	14,507,945	△1,543,897	

※科目間の流用を認める

校長先生挨拶



校長 木村 功

同窓生の皆様には、日ごろよ
り本校の教育活動に御理解と御
支援を賜り、厚くお礼申し上げ
ます。

本年度、本校は学校創立九十
周年を迎えました。大正十三年
の開校以来、二万六千名を超え
る卒業生が本校を巣立ち、社会
の第一線で活躍されています。
皆様のそれぞれのお立場での社
会貢献の積み重ねがそのまま本
校への期待と信頼につながって
いることが何よりも心強く感じ
られます。お陰様で、六学年、千
二百人余りの生徒が、自信と誇
りを持って、学業はもとより、部
活動や学校行事など、充実した
学校生活に日々意欲的に取り組
んでいます。

改まった式典等は実施を見合
わせることとさせていただきます
。ささやかでも、生徒一人ひと
りが九十周年の西高生・西高
等部生としての自覚を心に刻め
る催しにしたいと考えておりま
す。

記念講演会には、ジャーナリ
ストで東京工業大学の教授でも
ある池上彰氏を講師にお迎えし、
「中高生に送る 将来設計の道し
るべ(仮題)」という演題でお話
しいただく予定です。池上氏と
いえば、NHKのニュースキャ
スター時代に「週刊こども
ニュース」のお父さん役で、難し
い世の中を分かりやすく解説し、
大人から子どもまで幅広い支持
を集め、現在も各種報道番組に
引つ張りだこの方です。折角の
機会ですので、生徒との双方向
的なやりとりも交えた講演をお
願ひできればと期待している
ところで。

また、先日、前年度の新春の集
いの幹事の皆様方から、深緑の
地に白抜き校章が映える校旗
を寄贈いただきました。節目の
年にふさわしい贈り物をいただ
き大変うれしく思います。毎日、
校舎前庭の旗竿の先端で、国旗、
県旗と共に、西山台を渡る風を
受けて心地よくはためいていま
す。同窓生の皆様には、母校の後
輩たちの頑張りにも今後御注目
いただくとともに、一層の成長
を促す応援の風を送り続けてい
ただければ幸いです。

二〇一四年 新春の集い盛大に開催

代表幹事 藤田 薫(高46回)

平成二十六年一月二日、グラ
ンドホテル浜松にて毎年恒例の
「新春の集い」を盛大に開催でき
ましたことを心より御礼申し上
げます。

今年の「新春の集い」のテー
マは、「志」これから、ここから。
をテーマに、いくつになっても
志をもって生きていこうという
願いから、活動を進めて参りま
した。

高校卒業後、それぞれ皆さん
の歩んできた道は違えど、現在
も高校時代の志を貫いている人、
新たな志を持ち頑張っている人
に焦点をあて、皆様の原点を再
認識する機会を作りたい、そんな
思いが今年の新春の集いや記
念誌等に反映されています。

具体的には、記念誌におきま
して、「青春(こころざし)座談会」
を開催し、還暦年、幹事年、現役
生の三世代によるお互いの高校
生活や当時の志を語り合う座談
会を開催しました。また、サンフ
ランシスコ平和条約当時の現役
生(高4回卒)の先輩が平和条約
への思いを書いた作文が図書館
に六十年間保存してあり、当時
の現役生の生の声を見ることが
できました。まだ、他にも志を

テーマにした内容は数多くあり
ますが、記念誌では、このような
「志」にそった内容で作成しまし
た。

一方、当日の新春の集いも皆
様の志を語り合う場にした
い、そんな思いからさまざまな内容
にさせていただきました。参加
者一体となり楽しめるサンバ、
例年還暦の先輩のお祝いをして
いましたが、今年はさらに米寿、
喜寿の先輩のお祝いもさせてい
ただきました。今年のテーマ
「志」をモチーフとして「志」タ
オルの販売、新春大抽選会を行
い、浜松西高等学校の同窓生の
楽しく思い出に残る交流の場
あり、今年の「新春の集い」を
きっかけに、西高同窓生の新た
なつながりがさらに広がり、西
高OBの活躍がより活性化され
るきっかけになったのではない
かと実感しました。

本年の「新春の集い」には還暦



を迎えられた高24回卒の先輩の
皆様には、百名を超える多くの
ご参加、記念誌のご協力を賜り
心よりお礼申し上げます。また、
記念誌の発行及び新春の集いの
開催にあたり、広告協賛やチ
ケットの購入におきましても、
多くの同窓生の皆様、企業の皆
様のご理解とご尽力を賜るとも
に、温かい励ましのお言葉を
いただき心よりお礼申し上げま
す。

二〇一五年の「新春の集い」
は、高47回同窓生が幹事となり
ます。来年の新春にまた新たな
新春の風を吹き込んでくれるこ
とを思っています。

最後に浜松西高等学校の同窓
会、同窓生の皆様のますますの
ご多幸と浜松西高等学校の発展
を祈念して代表幹事の言葉とさ
せていただきます。

2014年 新春の集い 決算書 (単位:円)

科目	金額	摘要
収入の部		
広告売上	10,173,580	広告協賛企業 499社
チケット売上	5,954,000	チケット販売枚数 766枚
記念品売上	415,000	西高記念タオル販売
雑収入	65,000	恩師よりご祝儀(6名)
預金利息	768	預金利息
収入合計	16,608,348	

(単位:円)

科目	金額	摘要
支出の部		
会場費	7,483,689	グランドホテル会場費等
景品費	449,375	当日抽選会の景品
印刷費	2,749,933	記念誌、チケット等
通信費	520,066	携帯電話、葉書等
会議費	2,114,748	幹事会、部会経費等
事務費	22,605	文具等
交際費	531,988	西高フォーラム、総会等参加
渉外費	1,319,630	クライアントとの打合せ等
雑費	101,274	写真代等
その他(記念品販売)	488,608	記念タオル作成等
本会計繰入金	826,432	
支出合計	16,608,348	

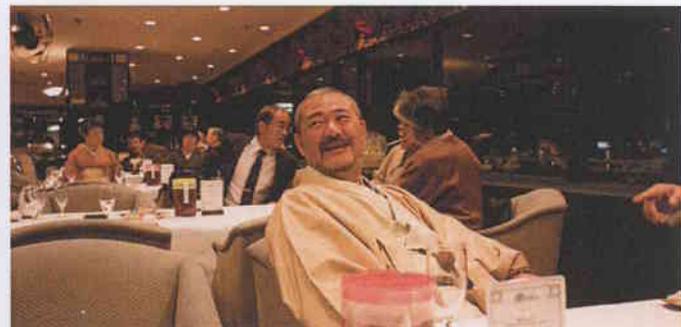
以上の通り、ご報告申し上げます。

静岡県立浜松西高等学校
高46回卒 2014年新春の集い幹事会

代表幹事 藤田 薫
会計 高須 紳輔

上記の通り、正確に処理され適正と認めます。

平成26年3月22日 会計監査 前田 米蔵
会計監査 市川 静子



第十回同窓会講演会

「夢がある創作という世界」

七尾 与史 高40回

「マスクしている人、多いですね」「うつきさないでくださいね」(緊張して話を聞こうとしている生徒たちの顔がこの一言ではころびました)

私は、作家の人格と歯医者的人格と使い分けしています。作家の人格は、嘘話、作り話をするうさんくさい虚業をしています。が、夢があります。歯医者的人格は、いい奴です。

自分の名前は明かさないといいましたが、「なおよし」です。ペンネーム七尾与史(ななおよし)は5秒で決まりました。名前はもじる人、多いです。例えば石平(いしだいら)さん「石田衣良」さんもそうですね。

年齢は四十四歳。皆さんのお父さん、お母さんの年代かな。逆に僕からすると、皆さんは自分の子供世代で親近感が湧きます。マスクしてると心配しちゃいます。大丈夫かなと。

二十五年前、1988年、昭和六十三年、西高を卒業しました。この体育館で。まさか、作家としてこの舞台上立つとは想像もしなかつたです。皆さんの中にも、

これから内閣総理大臣やハリウッドスターとしてこの舞台上立つ子がいるかもしれません。そうして脈々と西山魂が続いていくのでしょうか。

高校時代、本は読まなかつたけれど映画を観ました。観たくて部活をやりませんでした。芸能・エンターテイメントに対する憧れはありましたが、医療関係に進むと決めていたので、高校を卒業して豊橋の河合塾へ行きました。数学が苦手な浪人時代勉強をすっかりやりました。

それから県立九州歯科大学へ行き6年。灰色の学生生活でした。医療関係は大変です。目指す人、覚悟を決めてください。欠席許されぬ。実習休めない。留年が待っています。

福岡で1年勤めて浜松へ戻り、開業しました。開業して慣れてきたら時間ができて、本屋に寄つたら「ショートショートホラー応募作品集」が目にとまり、読んで自分でもできると思いました。最優秀賞20万。原稿用紙10枚書いてみました。2時間間で書けました。時給10万です。気分が高揚して次は600枚書きました。ピギナーズラックとは恐ろしいものです。編集社の方に「書き続けければ物にな」と言われ10年後「このミステリーがすごい大賞」最終選考の5人に選ばれました。《捨てる神あれば拾う神あり》「宝島社」で「本にするけどいいですか？」

このオフアアがあり、挨拶に行つたら「結果が全てです。売れなかつたら次はありません。」と言われました。「死亡フラグがたちました」「DS刑事」と続き、オフアアがあるようになりました。クリエイターの世界とは0から産み出されるもの。作家、アーティスト、作曲家、ゲーム作る人、映画監督、脚本家、シナリオライターなど多くの人が憧れる夢のある世界だと思えます。才能あればなれるわけでもなく、夢を持つても破れたらつまらないと言ふ人もいます。しかし、実現するために夢を持つのが大切なのだと思えます。実現しなくても悔いはないというように。クリエイターの世界には好奇心が必要で、微分積分は将来役に立たないだろうから、やつても仕方がないと思う人がいるかもしれないが、最後まで付



き合つてみる。いろんなことにトライしてみる。役に立つことがあるかもしれないということ。様々な体験、知識、経験が着想につながり、物を産み出すことになります。クリエイターの世界には夢があります。作家で言うところのセラーになる、ドラマ化する。お小遣いが100万倍になることも。例えば池井戸さんの「半沢直樹」とか。印税の話、興味ありますか？本は売れたらではなく、本になって店に並んだら印税が入るシステムです。売れたら増版。売れば出版社に戻され裁断される。裏ページを見るとわかります。2版、3版となれば売れて増版されているものということ。ノルウェーの森「告白」「永遠の0」などすごい。永遠の0は文庫本で1番売れて257万部とか。そうなる甘い印税生活です。貧乏で低迷していたのが突然巨大になる。「謎解きディナーの後」とか人生の逆転劇です。どういふ本が売れているのかなと本屋を覗くのも面白いですね。タイトル見ると世相を反映しているなと思えます。厳しいことを言います。ここにいる生徒さん12000人全員が作家デビューしたとしましょう。2年後生き残っているのは2人くらいです。新人作家の初版は5千〜6千部。作家は厳しいです。皆さん、本買ってください。

いね。ブックオフではなく、地元の本屋で買ってください。でないと文化が育たない。本は幅広く読んでください。是非よろしくお願ひします。クリエイターは「目」顕示欲の固まりです。夢を持つて希望にあふれ、自由にとか言いますが聞こえのよい言葉は残酷です。誰かを犠牲にして手にする物はどうなるの？と立ち止まって考えることがあります。西高の皆さんの中には社会のリーダーになっていく人がたくさんいます。目を見れば分かります。リーダーに必要なのは「思いやり」です。それが無い人がリーダーになると「ブラック」企業となり、最後には足を引っ張られる。誰も褒めてくれないということになります。西山魂が求めるリーダーは「ホワイト」他人を慈しむ気持ちがあり、自分をちよつと犠牲にしても人を思いやるような人間になって欲しいと思ひます。

講演後、質問を求めると挙手がいくつも上がりました。生徒「読者を楽しませたいと言いましたが自分も楽しんでいきますか？」七尾「楽しんでいきます。自分が楽しんでいなければ結果はでない。勉強でも何でもそうです」本を持参し、サインを手にする生徒さんも多数あり。身近に興味深い話をたくさん聞くことができました。

OB・OG会活動紹介

浜西弦友会

浜西弦友会(弓道部OB・OG会)は、平成21年10月2日の設立総会をもって、正式に発足いたしました。そしてその目的は、「現役弓道部の支援と会員相互の親睦研鑽」です。活動内容としては、年1回の総会&懇親会と年1回の懇親会が定期的な活動として定着してきたところです。現在、会員は10回卒の渥美憲一先輩(現在は現役で弓道教士6段)から47回卒まで58名です。年々会員は増えて女性会員も10名います。

現役の支援第一弾は、現役部員の希望で老朽化した「観的板」(当たり外れを〇×で表す物です。)の新品作製です。平成24年10月19日に贈呈しました。その後、当時の山崎文義会長(高21回卒)からの提案で「毎年恒



例的に支援できるもの」として「浜西弦友会杯」の開催が発案され、平成25年12月28日の年末練習最終日に「第1回浜西弦友会杯」を開催致しました。この事業は毎年開催していきたいと考えています。

第1回の男子優勝者 藤坂優馬さん 女子優勝者 甲山彩乃さんには優勝カップと図書券、部員全員にはドーナツと飲み物を進呈し和やかな会となりました。現役で活動されているOBで共に錬士6段の安立真之(高30回卒)渥美要一(高39回卒)両氏による模範演武があり、現役部員たちは真剣な眼差しで見入っていました。

我が弓道部には輝かしい歴史があります。昭和59年インターハイで全国制覇を勝ち取りました。当時主将を務めた池本浩貴(高

37回卒)も弦友会幹事として活動しています。

又、卒業後も活躍するOG・OBも多く秋田知子(高38回卒、旧姓高部)は平成13年東京都から国体に出場し成年女子遠的で優勝、渥美要一(高39回卒)は関西大弓道部主将として全国優勝を飾り今現在もアスモ弓道部で選手、監督として全国制覇の実績があります。

浜西弦友会会員一同、伝統を大切に永く交流支援していきたいと心新たにしております。

浜西弦友会 会長 小田木基行 (高22回卒)

対浜松北高OB定期戦

野球

平成二六年六月十四日(土)、長きに亘り野球部監督を務められた清水淳次氏の退任謝恩パーティーが浜松グランドホテル鳳東の間で歴代の教え子たち(現役生除く)、父母の方々、OB会並びに野球部関係者など総勢二〇〇名を越える出席者のもと盛大に開催されました。

清水淳次氏は昭和五六年野球部のキャプテンとして西高野球部初となる甲子園出場を果たした後、教員として平成十三年に母校に赴任、十三年に亘り野球部監督として熱く、そして心ある指導により西高野球部の一時

代を築かれました。パーティーでは清水氏の恩師である青葉氏(甲子園出場時の監督)の清水氏にまつわる懐かしいお話や各年代の教え子たちが練習に打ち込んでいた当時のDVDが上映され、会場に魅了する感動の記憶が鮮明に甦ってくる感動を味わいました。最後に清水氏並びに長年に亘りご主人を支えられた奥様に父母会、OB会より記念品が贈呈され閉会となりました。甲子園出場経験を持つOB監督が去り、ひとつの時代が終わった寂しさを感じるものの、後任の佐藤光監督のもと新たなスタートがいられています。悲願である二度目の甲子園出場に向けて野球部OB会は全力で指導者、選手たちをサポートしていきます。

ありがとう清水監督!ガンバレ西高野球部! (高40回 鳥 通孝)



サッカー 第三十八回定期戦結果

毎年八月の第一日曜日は、浜松西高校と浜松北高校の現役サッカー部員とOBの方々が集まり定期戦が行われています。現役選手においては各種大会で直接対決や大会結果などを競いながら、お互いに成長し、OBの方々は旧友を深めながらも、永遠のライバル浜松北高と競い合う良い機会となっています。第三十八回の定期戦は、浜松北高が幹事当番となり、遠州灘海浜公園球場で行われました。現役部員・父母会・若手OBから60代・70代のOBの方々まで多くの方に集まっていたいただき、緑色の芝生の上で楽しくボールを追いかけることができました。

OBの方々の真剣なプレーや、いくつになっても勝利にこだわる姿を現役選手に見せてもらえたことは指導者である我々もサッカーに対する考え方や、取り組む姿勢に大きな影響を受けたと思います。そして、今後も浜松西高校・浜松北高校のプライドをかけた戦いが続くことを期待しています。

OB戦50歳以上	浜西	1-3	浜北
現役C戦(中等部)	浜西	0-3	浜北
OB戦40歳以上	浜西	5-1	浜北
現役B戦	浜西	3-1	浜北
OB最強戦	浜西	4-0	浜北
現役A戦	浜西	0-0	浜北
3勝2負1分			

浜松西高校の勝利となった。(高40回 大隅康人)

叙勲の人

平成25年秋の叙勲

瑞宝双光章 藤田道朗(中16回)

平成26年春の叙勲

旭日小綬章 飯嶋 理(高13回)

瑞宝双光章 大塚哲雄(高14回)

瑞宝双光章

藤田道朗(中16回)



私は昭和十八年西山台より江田島の海軍兵学校へ進学した者の一人です。海軍はあの戦の結末の事態を予測し国家再建に備えるかのように全国の中学から我々七十五期から七十八期までその数一万三千人ものやる気ある若者を生徒に採用し特別の教育を行いました。学校での授業は体力気力を養うべき訓練は極めて厳しいものでありましたが、学習は専ら数学物理化学力学な

どの普通学で英語も英々辞典を与えて学ばせておりました。この事が大いに役立ち戦後は大学専門学校等に転入し更に力をつけ国の各分野に就職し国家再建の大きな力となったと考えております。

私も戦後電気工学を学んだ後、旧国鉄に就職し東海道本線の電化に係りました。東海道新幹線では電車線路の設計、施工、保全を担当し今日の安全正確な列車運行の礎を築くことに微力を尽くすことが出来たと思っております。

昨秋、はからずも叙勲の榮に浴し皇居にて天皇陛下のお言葉を賜って以来、天皇制を国の柱として久しく続いて来た美しいこの国を決して衰退させてはならないとの思いを強く致しております。

中国、韓国が力をつけ米國が力を失いつつあることにより発生している諸問題を乗り越えて行くにはやはり自らの国力を充実する以外にはありません。悲惨な戦争は絶対やってはなりません。国力とは経済力、技術力、外交力、文化力、軍事力の総合国力でありそのためには我々は何が出来ると考えております。

旭日小綬章

飯嶋 理(高13回)



時の流れに浮かぶ想い

中国の古代哲学の五行思想は、人生を四季になぞらえて「青春」、「朱夏」、「白秋」、「玄冬」に区分しています。瑞々しい青春のスタートをきった浜西高時代から、指折り数えて五十三年が経ちました。

昭和三十六年に浜西高を卒業して、齒科大学に入り、大学卒業後三年間、母校の小児齒科教室に勤務した後、昭和四十五年に新興団地の遠州浜で開業しました。むし歯や齒周病、口腔粘膜疾患は、生活様式と密接に関係します。生活弱者と口腔弱者は一体化していることが多いのです。したがって美味しく食べられることや会話が弾む生活環境になれば、口は幸福を表します。逆に、口腔機能が低下すれば口は不

幸せの入口になってしまいます。

齒科を単なる治療医学にとどめないで、生活を支援する医療の一分野として、齒科発の健康施策を地方自治体に反映させて、健康長寿への道筋をつけることが必要です。齒科医院は地域最前線の社会資源として人びとの健康の維持・増進に貢献することが時代の要請だと考えます。

こうした想いが結実して、平成二十一年十二月に「静岡県民の歯や口の健康づくり条例」が制定され、現在では県内九市町で歯と口腔の健康づくり条例が運用されています。

三十年に及ぶ市、県での活動に対して、昨年に旭日小綬章を拝受しました。今後も齒科をさらに社会化すべく微力を尽くしていく所存です。

瑞宝双光章

大塚哲雄(高14回)



私ごときが受章するのは誠に

恐れ多いことではありますが、平成二十六年年度の春叙勲で瑞宝双光章を受章することになりました。西高では、一年生でバスケット部に所属し天野力一(高6回)先生に目をかけて頂き、二年生から水泳部で河合九平(中19回)先生のご指導を仰ぎました。その縁で今ではバスケット部と水泳部、両部のOB会の理事をさせて頂いております。

静大を経て教職の道に進みました。静大教育学部入学の時、大石健次(高9回)先輩から西高卒の先輩が多くお見えになることを教えて頂きました。

教諭として四校を務めた後、浜松市教育委員会へ出向を命じられ浜松科学館の建設準備から運営に係りました。再度市教委の学校教育課に勤務を命ぜられた中で渥美高明(高10回)さん、山本治男(同)さん、土屋 勲(高12回)さん、鷲頭典利(高14回)君、吉村哲志(同)君はじめ、市役所西友会の多くの皆さんにお世話になりました。また、西高同窓フォーラムでは今村昭八(高8回)さん、松山巨男(高11回)さん、堀井 昂(高12回)さんから親しく声をかけてもらっています。叙勲受章の新聞発表の後、多くの皆様から御祝いとお励ましの電話、電報、葉書を頂きました。母校西高の同級生からも沢山頂き、感激一入であります。

活躍する同窓生

本物を伝える



伊藤 茜 (高47回)

ある夏、一人のおばあちゃんとの出会いが私の進むべき道を決めた。その人の名は、与那嶺貞さん。沖繩読谷村の伝統織物「読谷山花織（ゆんたんざはなうい）」を復元させ、今日の花織の基礎を築き人間国宝となった女性だ。

音大に進学し、音に関わる仕事に就こうと思っていた私は「会っておいた方がいい」と言う父に連れられ、気軽な気持ちで貞さんの家を訪ねた。「おおく伊藤さんの娘さんか！」と歓迎してくれた貞おばあちゃん。戦後焼け野原になった沖繩で、真心と情熱を込めて村の為に花織の復興を成し遂げたことを熱心に話してくれた。

「絡まった糸はね、けして切つてはいけないサ。何日かかっても一生懸命ほいて一本にしなさい。一生懸命ほいた糸で織る。そうすると、本当の美しい織

物が出来るから」瞳をキラキラさせながら語る貞さんはこの時九十二歳。話を聞いていた私は、着物に興味を持つ前に、貞さんの生き様に心奪われてしまった。夢中になって耳を傾けてみると、「実はね、一反だけあるわしの宝物。あんたがお嫁に行くとき作りんしゃい。」ひとつの反物を指差した。それは、今は貴重な綿の花織。触れた瞬間その感触に衝撃を受けた。

ひと織ひと織にその人の生きてきた時間がつまっている。こんな素晴らしい織物が日本にあることを、もっと多くの人に伝えたい！着物屋になろう。人生を決めた瞬間だった。

ところがここからが大変だった。着物といえは成人式に着た程度、一般常識をはるかに下回る乏しい着物知識、勿論着れない。右も左も判らぬまま、向いてなければ三年でクビにするという父の宣言が現実味をおびてきた。そんな中、西高時代に講演に来て下さった古橋廣之進さんの言葉を思い出した。「ゲンゴロウが泳ぐ防水用木のプールで誰より練習した。やるのなら誰より一生懸命やれ。」

とにかく毎日着物を着た。着物はその日の自分が全部着姿に出してしまう。それが良かった。世阿弥の言う、真の花を咲かせることこそ本当の美しさ、年を重ねるほどに着姿が美しくなる、

それが着物の醍醐味でもあると気づいた。

後日談だが、私の為にとくださった貞おばあちゃんの反物は、実は文化庁行きが決まっております。この後すぐに返しに行くというおちがついたのだが、「必ずもう一反織って送るからね」との約束通り、本当に三ヶ月後に美しい藍染の読谷山花織と帯を送ってくれた。「本物の読谷山花織を伝承したい」そう語っていた貞おばあちゃんの最後の作品は、今も私の心を奮い立たせてくれる宝物になった。

自然と向き合う



内山 朋飛 (高47回)

西山台から巣立って早二十年、夢にも思わなかったこの会報への掲載のご縁に感謝いたします。

両親が平成元年に始めた養蜂業、そして四年前から新たにスタートしたブルーベリー栽培業にも三年前から共に取り組み始め、自然と向き合い勉強に明け暮れています。

大学では英語を学び、卒業後は特養ホームの指導員や楽器製

造・営業、また介護の現場へと転職を繰り返して、「自分が何をしたいのか」がわからず迷走する日々。しかしようやく四年ほど前「自分が決めるしかない」と強く感じ、自然そして家族と共に生きる道を選び歩んでいます。

ただ、自然と向き合うことがほとんどなかった私、この三年間は自然の奥深さや偉大さを目の当たりにする事ばかりで、特に両親もまだ経験の浅いブルーベリーについては先輩方に学び試行錯誤の毎日です。そんな中でも特にミツバチの人の智をはるかに超えた能力・自然界への働き・生産品などについては知れば知るほど興味深く感銘の連続。そして同時に、この素晴らしい地球の宝物を研究し花粉交配やはちみつ・プロポリスなどの製品として周りの方々により良い生活のお手伝いができることは、何よりの喜びと感じています。

浜松の自然、そして大切な家族七人やお客様への感謝と共に、もうひとつ本場にありがたいと感じているのは、かけがえのない仲間たち。自分の仕事や夢に向き合っている同志と一緒に悩んだりアイデアを出し合った励まし合ったり。地元の勉強会やFacebookなどで業種や年齢を超えた仲間と交流できることが大きな力の源となり、みんなで盛り上げて地元や日本をもっともっと元気にして行こうとさまざまな形で動いています。

この世にパラダイスをつくりたい



唐澤 秀 (高47回)

あり得ない話かもしれないけど、憧れるよね……。

僕は茨城県鹿嶋市で鹿嶋パラダイスと名打って自然栽培(無肥料無堆肥無農薬)農家をしています。農学部を出てから茨城県古河市にある農業生産法人で九年働いた後、鹿嶋で独立して六年になります。

なんでパラダイスなんだ!??これには三つの理由があります。まず一つ目、農業生産法人時代、毎年世界一の生産物を作る生産者を訪ねる旅の中で会得したこと。それが「思いの一貫性、世界一のイペリコ豚の生ハムをつくる生産者も、世界一のモッツアレラチーズをつくる生産者も全て家畜の餌の栽培から加工販売まで全て自分たちでやっている。しかもその部門毎の人誰もが同じ熱い思いと製品に対する誇りが満ち溢れていたこと。生産者と市場と卸と販売店と、一見効率よく見える専門分業制がいちばん大切な思いを分断していたこと。二つ目、奇跡のリン

ゴで有名な木村秋則さんに出会ったこと。それまでおいしいDNAを持つ品種を有機質肥料で育てればおいしいものができると思っていたのが、自然栽培でつくられた野菜を食べた瞬間、次元の違う味の期待される効果にあふれんばかりの可能性を見出したこと。三つ目、この世のものは全て土からできていてということ。金属も石油も植物もすべて元は土から生まれていることを考えれば、田畑を持つ農家には何でも作れるインフラが備わっているということ。

「本当に美味しく、真に安全で、健康にも良く、環境にも負荷をかけない、全てそんなものに囲まれた生活って幸せ！それをやってみようってのが鹿嶋パラダイス。サイコウの素材を作ったサイコウのものをくりだして、生活の隅々まで。これは鹿嶋パラダイスのコンセプトです。衣食住に加えエネルギーも含めた生産も始めています。鹿島神宮参道に自然栽培素材を使った飲食店を、自然栽培小麦と大麦を使ったビール工場も今年稼働、ビール用ホップは地元のみなさんに作ってもらおうということでグリーンカーテンホッププロジェクト、地元特別支援学校と協同で和棉栽培を開始、製糸、デザインはアパレルブランドとコラボ。ナタネを使ったバイオディーゼル、粉殻を使った断熱の家など、パラダイス建設目指して様々な事業が始動しています。

あつたら素敵！を形にしている。機会があればぜひパラダイスに遊びに来て下さい。

世界の人々の幸福のために



菅沼 康久 (高47回)

高校を卒業してから早いもので十九年が経ちました。現在私は、建設コンサルタント会社は、海外事業部に所属し、「開発コンサルタント」として主にアジアの開発途上国で国際協力の仕事をしています。開発コンサルタントは、国際協力機構(JICA)等が実施するODA事業に関連した計画・調査・設計などのコンサルティング業務を行っています。現地政府と日本政府との間に立ち、質の高い援助を目指して両者の橋渡しをする重要な役割を担っています。また、業務の内容が現地の「人々の幸福」に直結している点も大きな特徴だと思います。私は開発コンサルタントになる前に、JICAの青年海外協力隊員としてヒマラヤのブータン王国に赴任しました。ブータンは、国民総幸福量(Gross National Happiness)の提唱により世界的に注目されている国です。幸福の形は様々ですが、一概に定義することはできませんが、私は幸福をはかる一つの指標として「人々の笑顔」というものを考えています。仕事

で訪れた途上国では、現地の人々の温かい笑顔に触れ、随分と助けられてきました。しかし、近年の急速な近代化・都市化の中で、アジア諸国でも特に都市部において、人々の笑顔が失われ始めているように感じます。都市化で人々の生活は便利で豊かなものになりますが、その反面、美しい自然や人々の心のゆとりは失われてしまっています。また、科学技術の進歩により自然を人間の思いのままにコントロールできるようなったことで、災害などに対する安全性は格段に向上しましたが、大自然に対する畏怖や敬意というものは薄れてきているように感じます。自然と共生する気持ちが希薄になってしまっているのが、結果として人々の笑顔も失われ、海外に出て外から日本という国を見ることができ、改めて日



モンゴルの建設現場にて

本はすばらしい国だと実感しています。しかし、日本だけがよければそれでよいかといえば、決してそうではありません。グローバル社会の中で、世界人口の約6割が集中するアジア地域が、世界や地球に対して与える影響は非常に大きいはず。アジアの先進国である日本は、今後もアジアのリーダーとして各国を牽引していかなければなりません。そうした中で我々開発コンサルタントも、人々の幸福に大きな影響を与える重要な立場にあることを再度認識し、人々の幸福というものを常に意識しながら日々の業務を行っていきたくと思います。

第13回 浜西フォーラム 溝口紀子さん講演

第十三回西高同窓フォーラムは、平成二十六年二月十五日(土) ホテルコンコルド浜松で百名余りの出席者のもと行われました。



第一部は「萩園の間」にて静岡文化芸術大学准教授で静岡県教育委員会委員でもある高42回溝口紀子さんの講演が行われました。(溝口さん：バルセロナオリピック女子柔道52kg級銀メダリスト。日本人女性初のフランス代表柔道チームコーチヘアテネ五輪)「性と柔、ムラ社会のなかで自浄能力を高めるには？」と題し、「ムラ社会」についての話や、他にもオリンピックや全柔連についての話題等、大変興味深く、また人を引き付ける話し方で、会場は大いに盛り上がりました。

組織の自浄能力を高めるには、ムラ社会(外部との交流が少ないコミュニティ、閉鎖社会)を「見える(可視化)」「聞く(傾聴)」「発言する(言語化)」ことが、我々先輩としてやるべきこと、また連鎖を止めていかなければならない、という纏めで締めくくられました。

第二部は、「雲海の間」に会場を移動しての懇親会。高14回大塚哲雄氏、高17回飯尾強氏による司会にて進められました。高4回壽山隆久氏のご挨拶から、溝口氏と高42回生の挨拶等が続き、歓談の時間には飯尾氏によるアトラクションも開催され会場は和やかな雰囲気の中、世代を超えての交流が図られました。高35回水野敦夫氏からゴルフコンペ幹事挨拶、高46回藤田薫氏から新春の集い幹事挨拶、高47回村松貴通氏から来年一月の新春の集い幹事挨拶の後、恒例の応援歌斉唱にて閉会となりました。

第三十八回浜松西高同窓ゴルフ大会



第三十八回浜松西高同窓ゴルフ大会が、平成二十六年五月十四日(水)に浜名湖カントリークラブで開催されました。前日の雨も上がり、初夏の陽ざしがさんさんと降り注ぐ素晴らしいゴルフ日和のもと高2回、高47回までの総勢204名の参加者が、和気あいあいと同窓生同士の親睦を深めることができた一日でした。
気になる競技の結果は以下の通りです。

◆シニアの部

- (高14回以上)：72名参加
- 優勝 中村 誠 (高9回)
- グロス95 ネット71・0
- 第2位 高橋 誠 (高4回)
- グロス85 ネット71・8
- 第3位 土屋武弘 (高8回)
- グロス91 ネット71・8

◆一般の部

- (高15回以下)：132名参加
- 優勝 内藤隆義 (高23回)
- グロス92 ネット71・6
- 第2位 今田文暦 (高32回)
- グロス102 ネット72・0
- 第3位 太田善邦 (高23回)
- グロス95 ネット72・2

◆レディースの部

- (3名参加)
- 優勝 石川江利 (高30回)
- グロス107 ネット73・4
- (以上敬称略)

多大なる協賛を賜りました皆様、ご参加いただきました同窓生の皆様に、御礼ならびに感謝をいたしますとともに、この大会がさらに発展し未来永劫引き継がれることを祈念いたします。

(幹事学年 高35回一同)



一般の部優勝



シニアの部優勝

還暦に寄せて



伊藤 昌彦 (高25回)

私は四月生まれということもあって同級生の中でいち早く六十歳になり還暦を迎えました。今、四十年以上前の西高時代を思い出すとそのたった三年間が人生の中で大きな影響を及ぼしていることに気がつきます。学校が面白くていろいろな仲間と一緒にいることが楽しくて、成績は落ちていく中でも楽しいことばかりでした。卒業式の後、成子町のレストラン・オークで三十人位集まったの卒業パーティーをして最後にアカペラで五つの赤い風船の「遠い世界に」を歌ったことを覚えています。これまで仕事・消防・PTA、祭り、何をしても先輩、同級生、後輩がいて助けてもらうことができました。

一九九三年の新春の集いでは「今日は復活祭」というテーマの下、初めて二部構成にし大成功しました。終わったあと達成感と終わってしまっただけ寂しさを感じたことを覚えてます。二、三年前から何回も集まり、みんなの意見をぶつけ合いひとつの目標に向かって頑張ったことでもまた新たな友情が生まれ、その後二十年以上も毎月居酒屋で集まって飲んでます。

あつという間に六十歳になつたような気がします。このごろの話題は病氣と年金の話が多いのでずいぶん詳しくなりました。私も若いと思っていたのですが、ここ十年位は年をとると言うことがどういふことか身をもってわかってきました。膝は痛いし目はぼやけるし髪の毛は少なくなつた上に白くなるし、その上時々つまずくし。それ以外にもいろいろあつて病院ばかり行つています。しかしそれより衰えているのが集中力や創造力です。私は明日できることは今日やらないという考えで生きてきたのですが、このごろほとんどん仕事がつまらなくなって片付きません。忘れっぽくなり段取りが悪くなつたと思います。一方で還暦を迎えられずに亡くなった仲間もたくさんいます。私は六十歳まで元気で楽しくやつてこられたことに大変感謝をしています。

二〇一五年一月二日の新春の集いで我々高25回は還暦のお祝いしていただけるという事で、今から全員を誘い出来るだけ大勢の同級生で久しぶりにグラウンドホテルに集まって楽しかった西高時代を思い出して、まだまだ元氣なところを見せに伺いたいと思いますので、二〇一五年の幹事の皆様よろしく御願ひします。

西高時代と還暦

高十回卒有志懇親会開催

平成二十六年五月高十回卒の有志懇親会が開催された。これまで三年に一回の学年同窓会を開いていたが、今回初めて有志の会が開催された。今回は近郊在住者に連絡をとっての開催で、連絡がいかんかった方には大変失礼したことをお詫び申し上げます。当初は十五名から二十名



集まればと思っていたが、意外にも彼にも連絡をしてくれとか、あいつも連れて行くからよろしくとかで女子二名と男子二十九名で開催された。思えば、卒業後五十六年を数える年となり、年々友との再会を希望するようになってきているようだ。

これを機会に毎年開催したらという声も多数聞かれ、幹事への宿題だと考えている。その節は皆さんのご協力をお願いしたいと思う。次回開催を楽しみに、元気でいきましょう。

白柳俊司(高10回)

高十回卒D・F組恩師米寿の祝いの会開催

平成二十五年十一月高十回D組恩師上山一雄先生とF組恩師伊藤久雄先生の米寿の祝いの会がそれぞれのクラスで開かれた。上山先生のD組は卒業二十年目の西高同窓会以降、毎年開催されておられ、先生にも毎回参加戴

いている。先生は「お前等は成績は決して良くなかったが、こうして毎年俺にも声をかけてくれる、やさしい気持ちを持った人間に成長してくれたことが俺は嬉しいよ」と言ってくれて、「元気である限り、毎年参加するぞ」と言ってくれている。

一方F組の伊藤先生は、知人ぞ知る「デッサ」の愛称で知られており、伝統ある西高陸上部を作りあげた、我々の大先輩で



D組恩師 上山一雄先生を囲んで

F組恩師 伊藤久雄先生を囲んで



もある。先年奥様を亡くすご不幸があったが、それにもめげず、今だに陸上部への情熱は衰えることなく、教え子達とのゴルフを楽しみながら、元気な毎日をお過ごしされておる。両クラスとも次回先生方の「卒寿の祝い会」での再会を楽しみに散会した。

白柳俊司(高10回)

同窓会専用電話・ファックス

☎/FAX 053-456-0662

Eメールアドレス

hama24@shizuoka.email.ne.jp

※毎週水曜日午後1時～4時までは事務員の長尾さんが対応。それ以外はファックス・メール又は、留守番電話にメッセージを録音して下さい。

境界人達(高5回卒)の同期会開催される

旧臘五日表記の通り高5回卒の同期会が開かれました。

市内在住メンバーへの呼び掛けが中心でしたが口込みが利き、遠くはマレーシアから、又、卒業以来初めての参加者もあり久しぶりに旧交を暖めた有意義な一日でありました。

私共は、昭和一桁最後の年に生まれ、常に旧・新の境目に位置し波瀾の只中に立たされた世代であります。

学制一つをとっても小学校入学時は「国民学校」に改組、戦後



は文字通り現在の六・三・三制の申し子の扱いで実質新制中学の第一回生、高校時は普通高校は住いする地域による「学区制」が布かれ、入試はアチーヴメント・テストの第一回、大学受験時は進学適性検査(現在の共通一次試験の魁の如きもの)が行われ、と常時変化の尖端に立ち対応して来た貴重な世代です。偶々「講和記念作文」の話題提供もあり、あれやこれやと歓談尽きない処でしたが、次回傘寿での再開を約束して散会しました。

出席者二十一名。

井口計介(高5回)

新刊紹介

同窓生の著作です

『ブラジル移民の父』

平野運平
松尾良一(高22回)



『性と柔』

溝口紀子(高42回)



『山手線探偵』

七尾与史(高40回)



恩師訪問



川島 慎二先生

立夏を過ぎ、日も長くなった五月のある夕暮れ時、川島先生のご自宅へ同級生三名でお邪魔させて頂いていただきました。「お前のご覚えているよ！」と卒業以来顔も出さなかった私たちの後ろめたさも吹き飛ばす笑顔で出迎えていただきました。

川島先生は平成三年から四年間浜松西高に地歴公民科の教員として勤務されました。ちょうど今の私たちの年齢の頃に西山台で教鞭を振るわれていたことがわかり、仕事に家庭にお忙しい当時の先生の姿に今の自分たちの姿が投影され、ぐっと先生のお話が身近なものに感じられました。

今年の三月に教職からは身を引かれたそうですが、浜松西高以外にも合計で十校に勤務され、進学校だけではなく、単位制、定時制、職業校など、様々な種類の高校に赴任された教職年数は三十六年。「私ほど色々な種類の学校に勤務した教師はいないんじゃないかな。その中でも西高生は本当に手がからなかった。」とのこと。

西高勤務時に自転車競技に出会い、全国各地で行われる大会に出場して上位入賞をするまでに。たくさん表彰状やメダルがご自宅に飾られていました。当時副顧問をされていたサツカ部の試合も自転車でも駆け付けていらしたことを思い出しました。一時の休憩を経て、数年前から再び耐久レースやサイクリングに出場されています。生徒指導に携わることが多く、非行問題に悩み解決にあたってきた経験などから、現在の教育問題に対して何か発信したい、貢献したいという熱い想いは学校を退かれた今でも更に大きく熱く、優しい口調の中にも熱い情熱が伝わってきました。子育て世代の私たちにとっても他人事ではなく、深くお話に聞き入りました。

そのような思いから先生は平成二十四年に「実録 高校生事件ファイル」という書籍を執筆し共栄書房より発行されました。ペンネームは和田慎市。「生徒を育てることの生きがいや希望を伝えたい」「教員を応援していきたい」という思いのこもったこの本は教師だけではなく、広く一般の方々に読んでいただきたい一冊です。私も拝読させていただきました。が、実体験がもとになっていたりとは思えないドラマチックな内容に引き込まれ、一気に読み上げてしまいました。

当時の熱血先生の面影そのままの川島先生。更にパワーアップされたように感じました。今後は執筆や講演会講師などをしながら教師全般の味方であり続け、社会貢献活動に力をいれたいとのこと。益々のご活躍を心からお祈りいたします！

(高47回 小杉哲康・安田恵・小田木俊郎)

英国語学研修報告

◇2013年7月28日(日)
十分ほどまえ、全員無事にロンドンに到着しました。コンコルド語学学校のスタッフが迎えにきてくれました。三十分後、ロンドンパノラマ観光に出発です。

◇30日(火) 研修二日目です。初日の Placement Test を踏まえて、今朝、クラス分けの紙が掲示されました。授業の始まりです。今日は、半袖では寒くていられないくらいです。体調を崩している生徒はいません。通学に一時間近くかかる生徒もいて、時間通りに来られない生徒もいますが、生活には徐々に慣れていくようです。

◇31日(水) イギリスでは珍しく雨が降り続いた一日でした。午後にはカンタベリーからバスで30分ほどの街、ウイスタブルまで遠足です。ウイスタブルはオイスターで有名なのだそうです。海を眺めて砂浜でゆっくりするはずの午後のひと時が、冷たい雨のため台無しです。気温は、天野先生所有の温度計によれば、二十度。しかしもつと寒く感じました。ほとんどの生徒が防寒用の上着、もしくは雨具をもっていたので、今のところ

ろは体調を崩すことなく過ごせているようです。ホームステイ先について、コンコルドの対応は誠実で安心できます。

◇8月1日(木) 午前は町に出てインタビュ、午後は教室での講義、夜はデイスコナイトという親睦会。忙しい一日でした。インタビュの時間にはフランスや中国の子と、町を歩く人に様々な質問をしていました。デイスコナイトでは、大音響にあわせて楽しそうに踊っていました。ちよつと気になったのは、デイスコナイトに全く馴染めず、さみしそうにしていた女子がひとりいたことですが、



・イトン・カレッジにて

朝、いつもと同じ表情で登校していたので安心です。

◇2日(金) 昨日、ロンドン34度、2003年以来の暑さだったそうです。カンタベリーも日差しがきつく、日陰の場所を探して歩かなければならないほどでした。午前中は授業、午後はカンタベリー博物館、ピクチャーチャレンジというアクティビティ、夜はチャイニーズナイトというイベントで、終了は9時半。天野先生と私だけがへとへとです。

チャイニーズナイトは西高が始めたジャパニーズナイト(日本文化紹介のイベント)に触発されて今回初めて開催されたのだそうです。今回のチャイニーズグループは重慶近くからきたということで、日本に対してどのような感情を抱いているのか心配でした。ホームステイ先で、食事中、中国人の男の子から、南京問題をどう思うか?と話しかけられた女子がいまして。ホストマザーはすぐに、政治の話はしないでとたしなめたそうです。不安も感じたチャイニーズナイトでしたが、コンコルドの配慮もあり、よい雰囲気です。ジャパニーズナイトで文化交流が深まるといいです。

◇5日(月) 土曜日はロンドンエクスカーション、キングスロッターステーションではハリウッドの子だけが来たがる駅に、それから大英博物館、コベント

ガーデンに行きました。数年前にスリの被害にあった生徒がいたということでしたが、問題なく終了しました。ホームステイも順調です。日曜日は休日。生徒はホームステイ先の家族と一緒に過ごすという一日ですが、ほとんどの生徒が、友達と過ごしたようです。邑田は、ロンドンで突然、太った白人男性にナイスツゥーミーチュと言われ、金を無心されました。新車のスリであつたようです。毅然たる態度でノーと言い、撃退いたしました。なぜか生徒は笑っておりました。

◇6日(火) 授業もあと四日となりました。昨日、新クラスが発表され、新しいクラスメイトと再スタートです。先週、二つの授業を見学しました。フランスやロシアの生徒がほとんど自分から発言するのに対して、西高生の授業では、文法用語に戸惑っていたようです。新クラスで成長が見られればと思います。

◇7日(水) 午前中は研修、午後は British Culture。夜は Club Chemistry。一度目はなかなか dance できなかった生徒が、今度はなかに入って、見よう見まねでフランス人たちが踊っていました。あまりに騒々しく、Discos が良いのかどうかわかりませんが、何事も経験かと。全体としては順調です。木曜日、夜は Japanese Night です。コンコルドの先生方から、昨年のは

トテモトテモ、素晴らしかったと言われ、プレッシャーに感じています。

◇8日(木) 夜、Japanese Night でした。コンコルドの生徒たちを集め、日本文化を紹介する催しです。海外でも人気があるらしいキャリパーミュージックから始まり、桃太郎、ソーラン節、柔道、空手の演武、そして二人羽織まで、生徒はよく工夫していました。拍手喝采でした。Japanese Night ではプログラムが早く進みすぎ、残り時間が三十分以上あるのに、すべての出し物が終わってしまいました。コンコルドからは帰りのバスにあわせるため、絶対に時間通りに終わってほしいといわれていました。大ピンチです。この危機を救ったのは団長、古橋翼くんでした。プログラムにはなかった二人羽織に挑戦。アドリブです。手を務めるのは小野田純也くん。奇跡が起こりました。翼くんに笑いの神様が降臨、翼くんのトークで会場は爆笑の渦に。特に、oh, My cute hand... の cue がなぜか大受けでした。後で、本人が大きな自信になったと言っていました。

最後に、英国研修は生徒にとって、一生の記憶に残る、得難い成長の機会になったようです。ご支援ご協力に感謝いたします。

引率 天野真秀・邑田聡一
(文責 邑田)

平成 26 年度入試結果概要

入試合格状況

	平成26年度			平成25年度			平成24年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立大	84	13	97	107	15	122	104	16	120
私立四大	477	58	535	499	63	562	397	69	466
国公立短大	1	0	1	0	1	1	3	1	4
管外大	3	1	4	0	0	0	0	0	0
各種専門学校	8	0	8	7	0	7	8	0	8

私立大学名 (主要大学)	平成26年度			平成25年度			平成24年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
酪農学園大	2	0	2	0	0	0	0	0	0
自治医科大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
獨協大	2	0	2	3	0	3	3	0	3
文教大	0	0	0	2	4	6	0	0	0
青山学院大	7	1	8	5	1	6	4	1	5
学習院大	0	0	0	1	0	1	0	1	1
北里大	3	0	3	9	0	9	4	1	5
慶応義塾大	9	6	15	8	0	8	6	4	10
国際基督教大	0	0	0	0	0	0	1	1	2
駒澤大	2	0	2	10	0	10	5	1	6
芝浦工大	8	1	9	5	0	5	8	3	11
上智大	1	0	1	0	3	3	2	0	2
順天堂大	0	0	0	3	0	3	1	0	1
専修大	5	0	5	12	0	12	4	0	4
成城大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
中央大	8	7	15	14	2	16	9	1	10
帝京大	7	0	7	3	0	3	2	0	2
東海大	10	0	10	7	1	8	4	0	4
津田塾大	0	0	0	5	0	5	0	0	0
東京女子大	2	0	2	4	0	4	0	0	0
東京農大	7	1	8	3	1	4	9	1	10
東京理大	18	1	19	15	1	16	11	5	16
東洋大	6	2	8	4	1	5	6	1	7
日本大	23	1	24	26	5	31	20	9	29
日本女子大	4	0	4	2	0	2	2	0	2
法政大	15	3	18	16	0	16	10	2	12
東京都市大	4	0	4	1	0	1	2	0	2
明治大	18	2	20	15	0	15	17	4	21
明治学院大	1	0	1	4	2	6	9	1	10
立教大	8	2	10	4	1	5	6	0	6
早稲田大	20	2	22	21	3	24	21	4	25
神奈川大	4	0	4	5	1	6	5	0	5
岐阜聖徳学園大	3	0	3	0	0	0	1	0	1
常葉学園大	H25年度より大学統合						12	2	14
常葉大	32	1	33	38	2	40	H25年度より大学統合		
聖隷クリストファー大	13	0	13	20	0	20	9	3	12
愛知大	6	0	6	6	0	6	9	0	9
愛知学院大	6	0	6	1	0	1	2	0	2
愛知医科大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
中京大	20	0	20	13	1	14	12	4	16
豊田工業大	1	0	1	0	0	0	1	0	1
藤田保健衛生大	3	0	3	3	0	3	1	0	1
南山大	19	0	19	10	3	13	4	2	6
名古屋女子大	0	0	0	3	0	3	1	1	2
椋山女学園大	0	0	0	2	0	2	3	0	3
日本福祉大	11	0	11	1	0	1	1	0	1
名城大	14	0	14	4	2	6	8	4	12
京都産大	1	0	1	0	3	3	4	0	4
京都女子大	4	2	6	5	2	7	6	0	6
同志社大	10	7	17	12	3	15	4	0	4
同志社女子大	1	0	1	4	0	4	0	1	1
立命館大	39	4	43	32	7	39	28	4	32
龍谷大	3	0	3	2	1	3	2	0	2
関西大	6	2	8	6	0	6	9	0	9
関西外大	2	0	2	3	0	3	0	0	0
近畿大	3	0	3	1	1	2	2	0	2
関西学院大	2	0	2	0	1	1	3	0	3
神戸女子大	2	0	2	0	0	0	1	0	1
川崎医科大	0	0	0	0	0	0	0	1	1

※推薦・AO・補欠合格等を含みます。

※私立総合計欄は、表記以外のすべての私立大学合格を含みます。

国公立大学名 (管外大学を含む)	平成26年度			平成25年度			平成24年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
北海道大	2	0	2	1	2	3	3	0	3
岩手大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
東北大	2	0	2	2	1	3	3	0	3
茨城大	1	0	1	0	0	0	1	0	1
筑波大	1	0	1	2	0	2	2	0	2
埼玉大	0	0	0	0	0	0	2	0	2
千葉大	2	1	3	4	1	5	0	0	0
お茶の水女子大	1	0	1	1	0	1	0	0	0
東京大	2	0	2	6	0	6	4	2	6
東京外大	0	0	0	1	0	1	1	0	1
東京学芸大	1	0	1	3	0	3	0	0	0
東京工業大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
東京海洋大	2	0	2	1	0	1	1	1	2
東京農工大	1	0	1	0	0	0	2	0	2
一橋大	0	1	1	1	0	1	1	0	1
横浜国立大	2	0	2	1	1	2	6	0	6
新潟大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
金沢大	1	0	1	1	0	1	0	0	0
福井大	0	0	0	0	0	0	1	1	2
富山大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
山梨大	1	1	2	1	0	1	3	0	3
信州大	1	0	1	3	0	3	5	0	5
静岡大	11	2	13	15	2	17	19	1	20
浜松医大	5	1	6	10	1	11	5	2	7
愛知教育大	0	0	0	1	0	1	1	0	1
名古屋大	12	0	12	7	0	7	7	0	7
名古屋工大	2	0	2	2	0	2	2	0	2
岐阜大	1	0	1	3	0	3	0	0	0
三重大	1	0	1	1	0	1	0	0	0
滋賀大	0	0	0	1	0	1	1	0	1
京都大	1	1	2	2	0	2	4	0	4
京都教育大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
大阪大	2	1	3	3	0	3	1	2	3
大阪教育大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
神戸大	2	2	4	1	0	1	1	1	2
奈良女子大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
岡山大	0	0	0	1	1	1	1	0	1
広島大	0	1	1	0	1	1	0	0	0
鳥取大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
山口大	1	0	1	1	0	1	0	0	0
高知大	0	0	0	0	1	1	1	0	1
徳島大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
香川大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
九州大	2	0	2	2	0	2	0	1	1
佐賀大	0	0	0	0	1	1	0	0	0
長崎大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
宮崎大	0	1	1	1	0	1	1	0	1
鹿児島大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
琉球大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
国際教養大	2	0	2	1	0	1	0	0	0
埼玉県立大	0	0	0	0	1	1	1	0	1
前橋工科大	2	0	2	3	1	4	0	0	0
首都大東京	2	0	2	2	0	2	1	0	1
横浜国立大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
神奈川県立保健福祉大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
都留文科大	0	0	0	0	0	0	2	0	2
金沢美術工芸大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
石川県立大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
静岡県立大	7	0	7	10	1	11	6	2	8
静岡文化芸大	1	0	1	2	0	2	2	0	2
愛知県立大	0	0	0	2	0	2	0	0	0
愛知県立芸術大	0	0	0	1	0	1	1	0	1
名古屋市立大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
京都府立大	1	0	1	0	0	0	1	0	1
京都市立芸術大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
大阪府立大	0	0	0	2	0	2	2	0	2
兵庫県立大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
鳥取県立大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
岡山県立大	1	0	1	1	0	1	1	0	1
県立広島大	0	1	1	0	0	0	0	0	0
高知工科大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
九州歯科大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
気象大学校	1	0	1	0	0	0	0	0	0
防衛大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
防衛医科大	1	1	2	0	0	0	0	0	0
海上保安大学校	1	0	1	0	0	0	0	0	0

西山賞受賞者

西山賞とは「全国レベルで特に優れた業績・功績を挙げた生徒」に対して、三部門別（文化・芸術部門、スポーツ部門、善行部門）に同窓会から卒業時に授与されるものです。

中等部

▼文化芸術部門

中等部弦楽部（団体）

TBS「こども音楽コンクール」

東日本優秀演奏発表会

最優秀賞 全国大会出場

田村颯朗

平成24年 全日本学生児童発明

くふう展 入選

速水真歩

第37回「小さな親切」作文コンクール 入選

堀川裕加

第54回動物愛護の作文コンテスト

ト 日本動物福祉協会「一等賞

益子愛莉

第58回青少年読書感想文全国コンクール

県教育委員会教育長賞

▼スポーツ部門

柿澤明里 中村志野

林英里香 森 有佐

笹本真実

全日選抜中学校テニス大会

予選リーグ2位

岩本大河

リトルリーグベースボールワールドシリーズ2011準優勝

正捕手

高林耕之朗

土屋勲本

上田航司 高野康平

第53回全国中学校水泳競技大会

男子400mリレー出場

高等部

▼文化芸術部門

針原智美

第37回全国高等学校総合文化祭

囲碁部門 団体戦 静岡県代表

杉山遥香 濱本千都

第33回全日本リコーダーコンテスト

銀賞

▼スポーツ部門

沢村侑樹

平成25年全国高等学校陸上競技

対校選手権大会 円盤投 出場

鈴木里菜

平成23年日本ユース陸上競技選

手権大会 棒高跳 3位

平成25年全国高等学校陸上競技

選抜大会 棒高跳 5位

平成25年第68回国民体育大会

少年女子共通棒高跳 2位

中津川瑞樹

平成25年全国高等学校陸上競技

対校選手権大会 二段跳 出場

平成25年第68回国民体育大会

少年A男子三段跳 5位

平成25年日本ジュニア陸上競技

選手権大会 三段跳 出場

坂梨雄亮

平成24年日本ユース陸上競技選

手権大会

110mハードル 6位

平成25年全国高等学校陸上競技

対校選手権大会

400mハードル8位

110mハードル 出場

平成25年第68回国民体育大会

少年A男子110mハードル7位

平成25年日本ジュニア陸上競技選

手権大会

400mハードル6位

110mハードル 出場

木佐森里沙 丸井千明

濱本千都 山本 歩

平成25年全国高等学校総合体育大

会ポルト競技

女子舵手付きクオダブル 準々決

勝進出

小田切堅太郎

平成25年全国高校総体水泳競技

男子200m背泳ぎ 出場

平成25年全国高校総体水泳競技

男子100m背泳ぎ 出場

平成24年全国JOC夏季大会

男子200m背泳ぎ 出場

織田知邑 宮道嘉連

平成23年全国高校総体テニス競技

女子団体ベスト16

「平成27年度静岡県立浜松西高等学校・同中等部の入学者選抜」について(予定)

	中 等 部	高 等 部
募集定員	160名(4学級)	80名程度(2学級)
選抜資料	総合適性検査、作文、面接、調査書等	調査書、学力検査、面接、実技検査及び作文 (実技検査及び作文については、「体育的活動」に関する裁量枠希望者のみ)
実施期日	平成27年1月10日(土)総合適性検査、作文	平成27年3月4日(水)学力検査、作文 (作文については上記希望者のみ)
	平成27年1月11日(日)面接	平成27年3月5日(木)面接、実技検査 (実技検査については上記希望者のみ)

*お知り合いの方々にお知らせください。

編集後記

◆西高図書館に「シーラカンス」があるとか。いつか行ってみたいです。(C)

◆編集委員に興味のある方、どうぞ同窓会Eメールまでご連絡ください。(C)

◆毎回先輩方とお話ししながら楽しい編集作業でした。(M)

◆校正作業では自分の国語力のなさに愕然。でも、毎回楽しい編集委員会でした。(A)

◆楽しい編集委員会でしたが、そのおかげで校正時には特に集中力が要りました。(Y)

◆編集委員会、アットという間に過ぎてしまいました。が、何をしたのかよく覚えていない自分です。(：)

会報編集委員

- 左右田丈夫 (中19回)
- 近藤 哲哉 (高9回)
- 野村 千明 (高38回)
- 岩淵 千江 (高39回)
- 大隅 康人 (高40回)
- 山本 優美 (高40回)
- 落合 優 (高46回)
- 杉浦 康仁 (高46回)
- 小島 明子 (高46回)
- 小田木俊郎 (高47回)
- 村松 貴通 (高47回)
- 安田 恵 (高47回)
- 小杉 哲康 (高47回)